

1 単元名 たしかめながら読もう 「一本の木」
—— 書くことを意識した読む学習 ——

2 単元の目標

- ・ムナーリさんの木のかき方や様々な木の形に興味をもつ。(関心・意欲・態度)
- ・書かれていることを順序よく読み取ることができる。(読む)
- ・説明に必要な事柄を整理して組み立てを考え、順序よく書くことができる。(書く)
- ・順序を表す語句の使い方を理解する。(言語)

3 単元について

本単元は、本文と挿絵を対応させてそのつながりを確かめながら読み取れることをねらっている。その読みの過程で学んだ書き表し方を参考にして、単元の後半では、自分でも説明書を書く活動が位置づけられた構成になっている。

「一本の木」はブルーノ＝ムナーリ作の絵本「木をかこう」に掲載されているものである。前半では筆者とともに本文を読みながら木をかく過程を体験してみようと呼びかけている。木をかくために、「どこから」「どんなえだを」「どのように」かいたらよいかを知るために順序よく叙述を読み取ることになる。後半では、本物の木をよく見てみようと呼びかけている。さまざまな木の形の説明が本文のどこに書かれているのかを見つける活動は、自ずと絵と叙述を対応させて正確に読み取ることになる。普段何気なく見ている木の形を改めて見直すことが、叙述を丁寧に読むことにつながっていく。

これまで、2年上の「たんぼぼのちえ」において、時間的な順序を中心にたんぼぼの様子を読み取る学習をしてきた。また、「サンゴの海の生きものたち」では、文章と写真を見比べながら生きものどうしの共生を読み取る学習をしてきた。この二つの教材は、読むことの目標として時間的な順序、事柄の順序などを考えながら、内容のたいたいを読むことを設定している。本単元はその二つを統合しつつ、絵と文章とを照応をしながら読むことが求められている。そこで、絵を適切に活用し、言葉とのつながりを大切にしながら読み進め、内容把握や順序の理解につなげていけるように工夫したい。

また、本単元では、書くことも重要な学習内容となっている。読み取ったことを絵や図で表現したり、挿絵から分かったことを説明したりするなど、書くこととの関連を図りながら読みの力を高めていくようにする。2年上「かんさつ名人になろう」では、見たことを丁寧に書き取る学習で書くことの基礎を養い、さらに、分かりやすく知らせるために、絵と文で表しながら書くことよいことを学んでいる。絵入りの説明書を作る学習は、児童にとっても大変興味ある学習であると思われる。楽しく学習に取り組めるような場を設定したい。これらの学習は、3年生の「すがたをかえる大豆」や「せつめい書をつくろう」につながっていく。

4 児童について(男子17名、女子17名 計34名)

本学級の児童の多くは、国語の学習が好きである。(大好き20名、好き6名、ふつう7名、きらい1名)その理由として、「お話がおもしろい」ことや「新しいことが分かる」ことを挙げている。また、国語の学習で、「劇をする」ことや「スピーチをする」ことは好きだが「作文などを書く」ことは苦手だと思っている児童が多い。「かんさつ名人になろう」のように、ひとつのことをじっくり観察し、順序立てて文を書く経験が少なく、何をどんな風にかければよいか分からなかったり、時間をかけて書き進めていくことに抵抗があるからだと思われる。児童による読み書きの差が次第に広がってくる時期なので、教材文の内容、情報を表現に即して丁寧に読み取り、それを生かしながら、書くことへの抵抗が少なくなるようにしていきたい。また、伝える相手を想定することで、書く意欲の動機付けにしたい。

これまでの説明文「たんぼぼのちえ」では、4つの「ちえ」について時間的な順序を表す言葉に着目し、変化の様子を絵で表しながら学習を進めてきた。「サンゴの海の生きものたち」では、教材文で読み取ったことを吹き出しや動作化で表現した。お互いが助け合って生活していることを理解し、クマノミやイソギンチャクになりきって、言葉と動作で喜んで表現していた。その後、自分でも海の生きものについて調べ、図鑑にまとめた。これらの学習を想起しながら、丁寧に読み取り、読み取ったことを生かしながら書くことへの移行がスムーズになるようにしたい。

5 指導について

自信をもって自分の思いを表現するために

本校の研究主題は「思いをふくらませ、表現することのできる子どもの育成」である。それを受けて、低学年部では「楽しくいきいきと表現できる子どもの育成」を部会テーマとした。安心して話せる学級があってこそ「楽しくいきいきと表現する」ことができる。友達に自分の思いを分かち合いたい、自分の考えを伝えたいという気持ちが生まれてこなければ、自分を表現しようとはしないであろう。そこで、「自信をもって自分の思いを表現できる学級づくり」をめざし、取り組んできた。暗唱会をする、発表会をするなど小さな発表の場を数多くつくることで、自分とは違った表現のしかたに気付いたり、友達の頑張りを認めたりできるようにしてきた。ここでは、できあがった説明書を、家の人に見せる前に友達と読み合う活動を取り入れる。よかったところを伝え合うことで、友達のがんばりや書き方のよさに気づくことができると考えている。

また、自分の思いや考えを伝えやすいように、グループ単位での話し合いを多く取り入れている。話し合い活動では、児童が、楽しく積極的に話し合いに参加できるよう、場や雰囲気工夫したい。

この単元の導入で「自分の好きな木」を探す活動を取り入れる。いろいろな木をいろいろな理由で好きな児童がいることを知り、お互いが尊重しあえるようにしていきたい。

「書く」につなげる丁寧な「読み」のために

文章に書かれた内容・情報を関係づけながら整理し正確に読み取っていく力は、これからの学習の基礎ともなる力で、どの児童にも十分に身につけさせる必要がある。そのために、「順序」を表す言葉に着目しワークシートにまとめたり、大切な語句（キー・ワード）にサイドラインを引いたりして読みを助けていきたい。

また、そこにかかれた絵に注目させながら、ムナーリさんは、木が成長することを意識して、分かりやすく木のかき方を教えてくれているということに気付かせたい。

読みだけに終始する学習では興味の持てない児童もいるので、表現的な活動を読みの学習にも取り入れ、読みの意欲を高めていきたい。

文章を自分で読み取ってまとめていく学習が「自分で説明書を作る」という活動につながっていくことを意識付けながら読み進めることで、読み取りの力を定着させることができるであろう。

「分かりやすく説明する」ことへの意欲を高めるために

この単元は、各学年に設けられた情報活用単元の最初に位置づけられた単元である。したがって、従来の読みの学習でも行われてきたことであるが、絵を描いたり、説明書を作ったりといった「目的意識」を明確にさせ、その観点から書かれている言語情報を読み取ったり活用したりするという方向付けをしていくことが求められる。

本単元では、行動の順序を取り上げ、物の作り方の順序を読むこと、書くことを指導する。その際、大切になるのが、接続語の使い方や題材の配列の仕方である。順序を示す接続語にはどのようなものがあり、どう使われているのかを読み進める過程でしっかりとつかませるようにする。分かりにくい説明を分かりやすく話したり書いたりするには、何が分かりにくいのかを分析することが必要である。分かりやすい説明と分かりにくい説明を対比させることで、どうすれば分かりやすい説明書になるかを考えさせていきたい。

この単元では説明書を書くという場面を用意し、書くことの必然性をもたせている。例えば「動くおもちゃ」の説明書を作る場合、完成に至るまでにどのような手順で作るかということが中心になる。しかし、作り方の手順だけでは不十分であり、次の項目も補っておく必要がある。

- ①どのようなおもちゃなのか
- ②必要な材料・道具は何なのか
- ③どのようにして遊ぶのか

これらのことを文章だけでなく、必要に応じて絵入りで書くことができるように工夫したい。どのような情報をどのような順序で伝えていけば、伝えたいことが正しく伝わるかを考えさせながら説明書を作らせたい。

また、伝える相手を想定し、相手のことを思い浮かべながら言葉や書き方を選べるようにしたい。

この学習が、論理的な思考や相手に分かりやすい話し方ができる児童の育成につながっていくことを願っている。

6 指導計画（11時間配当 本時 8/11）

時	学習内容	ねらい	関	読	書	読	言	評価規準
	自分の好きな木を探す。							(生活)
1	教材文を読んで、学習の見通しをもつ。	説明のしかたを知り、自分で説明書を書くことを知る。	◎					(関心・意欲・態度)・木の形やかき方について興味をもち、文章のだいたいをつかんでいる。
2	ムナーリさんの木のかき方を順序に従って読む。	文章と絵のつながりを理解して「木のかき方」を読み取ることができる。				◎		(読む)ムナーリさんの木のかき方を正しく理解している。
3								
4	ムナーリさんの木のかき方がわかる絵入りの説明書を作る。	事柄の順序を考えて、文章を正しく読み取り、4枚のカードを作ることができる。			○	◎		(読む)ムナーリさんの木のかき方の4段階を正しく理解している。
5	「いろいろな木の形」と絵をつなげて読む。	絵と文章を正しくつなげて、どんな形の木について説明しているのかを読み取ることができる。				◎		(読む)絵と文章を正しくつなげて「いろいろな木の形」の説明を読み取っている。
6	「いろいろな木の形」の絵入りの説明書を作る。	「いろいろな木の形」を正しく理解し、カードに書いて確かめることができる。			○	◎		(読む)「いろいろな木の形」を正しく理解し、カードを絵と文章をつなげて作っている。
7	教材文を読み、文章の組み立てを考える。	大きく文章を捉え、大事なことをつかむことができる。				◎		(読む)文章の構成が分かっている。
	自分の好きな木をかいてみる。							(図工)
8	これまでの学習を振り返り、分かりやすい説明文について確かめる。(本時)	「読むこと」と「書くこと」をつなげ、説明書を作る意欲を高める。	○		○	◎		(言語)分かりやすい説明文の書き方が分かっている。
9	説明書を作りたいおもちゃを選んで、説明書を作る。	絵入りの説明書を作って、友達に伝えることができる。				◎		(書く)おもちゃの作り方を順序に従って、説明書にまとめている。
10		分かりやすい説明書を作ろうとしている。	◎					(関心・意欲・態度)伝える相手のことを考えながら分かりやすい説明書を作ろうとする。
11	できた説明書を友達と読み合い、分かりやすいか感想を話し合う。	書き方のよさを見つけることができる。		○		○	◎	(言語)分かりやすい説明文についての観点をもち、書いたり読んだりするときに生かそうとしている。

7 本時の目標

説明書を分かりやすく書くためのポイントを見つけ、分かりやすい説明書を作ろうとする意欲を高めることができる。

8 準備物

掲示用紙、ワークシート

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
○動くおもちゃの作り方の説明書を書くことを知る	
分かりやすい説明書を書くために、どのようなことに気をつけたらよいだろう	
○前時までの学習を振り返り、分かりやすい説明文について確かめる。 ・順序が大切なものには「まず」「つぎに」などの言葉を使う。 ・絵と文章が合っている。	・前時に使った掲示用紙を貼り、思い出すようにする。
○ワークシート1の説明書がなぜ分かりにくいかを考え、話し合う。 ・数が書いてないからいくつ使うか分からない。 ・詳しく書いてないから、切り方が分かりにくい。 ・はじめに何をするのか書いてないから分かりにくい。	・大きさや形を具体的に書かないと分かりにくいことに気付くようにさせる。
○ワークシート2の説明書を分かりやすい説明書に書き換えるため、グループで話し合う。 ・長さや大きさを数字で書くといい。 ・やる順番に番号をつけた方が分かりやすいと思う。	・ワークシートに付け加えたり、直したりできるように余白を大きくとる。 ☆進んで話し合い、分かりやすい説明書にしようとしているか。 （関心・意欲・態度…発言・観察）
○分かりやすい説明書の書き方についてまとめる。 ・何を始めるのかはじめに知らせるとよい。 ・まとまりに分けて順に書く。 ・大きさなどは分かりやすいように数字で表す。 ・分かりにくいところは、絵で説明したり、絵に言葉を書きこんだりして分かりやすくする。	☆分かりやすい説明書の書き方が分かったか （言語…発言・ワークシート）
○次時では自分の書きたいおもちゃを選び、おうちの人に作り方を知らせる説明書を作ることを知る。	・生活科で作ったおもちゃを提示し、説明書を作りたいという意欲を高める。

10 授業の観点

ワークシートを使って、話し合うことは読む学習と書く学習をなだらかにつなげるのに有効であったか。